

SFRR Japan NEWSLETTER January 1, 2013



Top News

2013年 巳年



年頭のご挨拶

名誉理事長 吉川敏一

(京都府立医科大学学長)



皆様、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、日本酸化ストレス学会の皆様へ、一言ご挨拶を申し上げます。昨年度、伝統ある本会の初代名誉理事長を拝命いたしまして、先輩方が築いてこられた伝統の重さと責任に身の引き締まる思いがしております。新しい役割を頂きましてから過ぎようとしている一年を振り返りますと、社会的には将来に不安を抱かせるような様々なことがございました。しかし本会に目を向けますと、新会員数の増加、国際フリーラジカル学会のホスト国の決定、オフィシャルジャーナルであるJ Clin Biochem Nutr (JCBN)のインパクトファクターの増加、JCBNの出版に対する科学研究費(研究成果公開促進費)の連続助成獲得と、理事長の小澤俊彦先生を中心に会員の皆様の努力と勤勉のおかげをもちまして着実に発展を遂げており、心強いばかりでございます。

さて、本年は巳の年でございます。巳は、止むという意味の「シ」とも読まれ(大辞林)、原義は胎児の姿を表す象形文字と言われています。冬眠から冷めた蛇の姿を現しているともされ、旧来の物事に終わりを告げるという意味を持つとされます。私たちの日本酸化ストレス学会でも、これまでに「酸化ストレスは身体に悪い」というだけの古い概念を捨てて「身体に良い酸化ストレス」というものが存在することを見出してきました。本年も巳年にふさわしく、旧来の概念を打ち破り、新しいことが始まるような情報発信を、会員の皆様にはお願いしたいと思っております。

最後に、2013年が皆様にとりまして充実した一年となることを祈念して、私の新年の挨拶と致します。

理事長 小澤 俊彦

(横浜薬科大学教授)



新年を迎え、会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日本酸化ストレス学会が新たな学会として発足してから、6年が経過し、学会としても十分に定着したものと確信しております。私も理事長として2年間無難に任務を努めることができました。これもひとえに会員各位の日頃よりの様々なご協力、ご尽力の賜物であると心より感謝申し上げます。また、本年1月より1期2年理事長を務めさせていただきますので、会員の皆様のさらなるご協力、ご支援を頂きたいと心よりお願い申し上げます。2011年3月11日の東日本大震災と大津波、それによる原発事故で現在も会員諸氏におかれましては極めて厳しい研究環境になられている方もおられると思います。心よりお見舞い申し上げますと共に速やかな回復を祈念致しております。

このような状況下で、本学会の登録会員数も900名を越えまして、大変順調に組織化が進んでおり、会員各位の酸化ストレス学研究への関心の深さを感じておりますが、更に一層会員の増加をはかりたく、会員数1000名を越すことを目指したく関係各位に会員獲得をお願いする次第です。特に、若手研究者の増加が新しい発想と柔軟な考えが研究の発展と拡大につながるものと考えております。是非ともこの点を考慮していただき会員増加につなげていただくと願っております。

一方、本学会のOfficial JournalであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)は更にインパクトファクターが上昇しまして、国際誌の仲間入りを果たしつつあります。これも会員各位のご協力の賜物と深謝いたしております。更に一層の上昇を目指すうえで、会員各位が国際的な視野を広げられ、JCBNに多くの投稿をされることを期待しております。以上が、新年を迎えるにあたっての私の思いであります。最後になりましたが、本年も会員各位におかれましては健康と安全に充分に留意され、益々活躍されることを祈念しております。

◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第66回日本酸化ストレス学会学術集会

日時:2013(平成25)年6月13日(木)~14日(金)
会場:ウインクあいち(JR・名鉄・近鉄名古屋駅から徒歩5分)
〒450-0002愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL: 052-571-6131, FAX: 052-571-6132
http://www.winc-aichi.jp



開催のご挨拶

会長:豊國 伸哉

(名古屋大学大学院医学系研究科
病理病態学講座生体反応病理学教授)

このたび、愛知県名古屋市におきまして第66回日本酸化ストレス学会学術集会を開催させていただきますことをたいへん光栄に思います。ここ東海地方におきましては、昨年度日本酸化ストレス学会東海支部が新たに結成され、酸化ストレス研究の1つのクラスターに成長していくことを期待しています。私自身ヒトの病気を研究すればするほど、「酸化ストレス」の重要性を改めて認識する毎日ですが、下記の内容を含めた意欲的なプログラムを現在鋭意準備中です。教育講演 祖父江 元(名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学教授)「神経変性疾患の病態に基づく治療への展望」;特別講演1 貝淵 弘三(名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理学 教授)「タンパク質のリン酸化:シグナル伝達研究に残されたブラックボックス」;特別講演2 堀 勝(名古屋大学大学院工学研究科 集積プロセス講座 ナノプロセス 教授)「大気圧・液中プラズマの医療応用におけるフリーラジカル」;学会賞講演 安西 和紀;学術賞講演 吉田 康一

名古屋には、名古屋城・熱田神宮・徳川美術館に代表される「歴史・武家文化」、ものづくりの現場を見学できる「産業観光」、ショッピングやグルメ(セントレアやタワーズはお勧めです)、動物園や水族館など「都市のエンターテインメント」もあります。会員の先生方におかれましては、是非教室の若手や学生のみならずと一緒にご参加いただきますよう、事務局一同心よりお待ちしております。

SFRR International 2014

準備状況報告



来る2014年3月に京都で開催されます第17回国際フリーラジカル学会Biennial Meeting (SFRR2014)について、準備状況をお知らせいたします。2012年9月に開催されたSFRR 16th Biennial Meeting (ロンドン)、および同年11月に開催されたSFRRBM 19th Annual Meeting(サンディエゴ)の各学術集会の委員会において

1)開催概要 2)Organizing Committeeの暫定メンバー(SFRR-Asia Organizing Committee, International Advisory Board, International Scientific Program Committee) 3)今後の日程(Call for symposia, Call for paper, Registrationなど)について報告を行い、大筋でSFRRの委員会の承認をうけ、現在調整を行っているところであります。

プログラムにつきましては、Plenary LectureとSymposium、一般演題、ポスターセッションを予定しており、ご参加の皆様にご満足いただけるような構成を目指しております。2012年12月からは、日本酸化ストレス学会をはじめ、世界中のSFRRメンバーにSFRR2014のシンポジウム案について広く募集を行っており、皆様のご提案をお願いする次第でございます。6月にはCall for paper、7月にはEarly Registrationを開始予定ですので、皆様のご応募を心よりお願い申し上げます。今回で日本での開催が3回目となりますSFRR Biennial Meetingですが、是非とも今後のSFRR-Japanの更なる発展のためにも会員の皆様方には、重ねてご協力のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

Chairs of SFRR2014 豊國伸哉/内藤裕二

～ 2012年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第65回学術集会(2012年6月 徳島開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

「2012年度 学会賞 を受賞して」

安西 和紀 (日本薬科大学 教授)

この度、2012年度日本酸化ストレス学会学会賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じております。また、小澤俊彦理事長、桑原幹典選考委員長他関係者の皆様に深謝いたします。

私の研究人生の始まりは、東大薬学部4年生の時に、脂質膜小胞(リソソーム)に対して界面活性剤Triton X-100が作用した時の膜流動性の変化をESRスピニング法によって調べるという卒業研究からでした。以来、ESR法は私の研究の一つの軸になっています。その後、名古屋市立大学薬学部と九州大学薬学部において生体膜関連の研究に従事してきましたが、1993年に放射線医学総合研究所(放医研)に異動したことが酸化ストレスと深い関わりを持つようになったきっかけでした。生体に放射線(電離放射線)があたると、最初の過程で水と放射線が相互作用して水からヒドロキシルラジカル、水素ラジカル、水和電子等のフリーラジカルが生じ、それが生体成分に作用して様々な影響を与えます。したがって、放射線による生体影響の研究においては、活性酸素・フリーラジカルの生体成分への作用を明らかにすることが大変重要なテーマでした。放医研への異動当初は、それまでの生体膜研究の経験を生かして、筋小胞体に対するヒドロキシルラジカルの作用を検討し、脂質再構成膜法を利用した研究から、ヒドロキシルラジカルがリアノジン受容体チャネルタンパク質のチオール基に作用してその活性を低下させることを明らかにすることができました。その後は、放医研にあるESR装置(Xバンド、Lバンド、イメージング装置)を用いて、放射線によるフリーラジカル生成と生体影響について様々な系で研究しました。特に、HIMACは放医研が世界に先駆けて作った癌治療のための重粒子照射装置ですが、HIMACを使って重粒子線によるフリーラジカル生成と生体影響についてきちんとしたデータを出すことができました。さらに最近では、放射線による生体への悪影響を防御するための化合物に関与して研究を行ってきました。今後は、この実用研究をさらに発展させて、福島第一原子力発電所の事故のような場合に使用できるような、ヒトに対しても適用可能な放射線防御剤を開発していきたいと夢見ています。今回の私の受賞は、これまで研究を指導して下さいました先生・上司・先輩および一緒に実験し議論し合った同僚・後輩・学生との共同作業の賜物であり、私一人の力では到底できなかったものです。この場をお借りして皆様に深く感謝したいと思います。ありがとうございました。



「2012年学術奨励賞 を受賞して」

神谷 哲朗 (岐阜薬科大学臨床薬理学)

この度は、栄えある日本酸化ストレス学会学術奨励賞を頂き、大変光栄に感じております。理事長 小澤俊彦先生、第65回学会会長 寺尾純二先生、並びに選考に関わった諸先生方に厚く御礼申し上げます。私は平成18年に岐阜薬科大学を卒業後、生化学研究室に進学し、本学会に参加させて頂きました。翌年、足立哲夫教授の主宰する臨床薬理学研究室に採用して頂き、現在では、EC-SOD発現調節機構としてのエビジェネティクス解析を行っております。酸化ストレスとエビジェネティクスとの関連性はまだまだ発展途上であり、非常に興味深い研究であると考えております。本奨励賞の受賞を励みに、研究を積み重ね、我々の研究が酸化ストレス学の発展に貢献出来るよう努力していきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬ御指導、御鞭撻の程、宜しく御願申し上げます。最後になりましたが、本賞の受賞に際して、御指導を賜りました足立哲夫教授、原宏和准教授をはじめ研究室諸氏に感謝申し上げます。

御簾 博文 (金沢大学医薬保健研究域医学系恒常性制御学)

この度は日本酸化ストレス学会学術奨励賞をいただき、大変光栄に感じております。審査をして下さった先生方ならびに酸化ストレス学会の会員の皆様に深く感謝申し上げます。また、実験の御指導を賜りました金沢大学恒常性制御学金子周一教授、篁俊成准教授ならびに共同研究者の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。今回の研究で私は、糖尿病に関連した肝由来分泌タンパクであるセレノプロテインPが、活性酸素を除去することで運動によってもたらされる様々な健康増進効果をむしろ減弱させることを発表しました。活性酸素種の二面性を見据えたいうでの新たな糖尿病治療の開発に向けて、より研究を進めていきたいと考えております。今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしく御願申し上げます。

斎藤芳郎 (同志社大学生命医科学部医学生命システム学科)

この度は、学術奨励賞をいただき誠にありがとうございました。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、第65回学術集会会長 寺尾純二先生、選考に関わった先生方に心よりお礼申し上げます。また、これまで御指導頂きました多くの先生方に深く感謝申し上げます。私は、2002年より本学会の前身であります「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」より参加させて頂きました。本学会での分子から臨床レベルの幅広い研究を拝聴し、自分の研究も自分の枠内にとどまらず、臨床検体にチャレンジしたいと感じました。今回発表させて頂いたパーキンソン病患者の脳・赤血球中での酸化DJ-1の変化も、本学会での様々な先生方から受けた「いいストレス」が原動力になっていました。未だ課題が山積みの研究課題ではありますが、この受賞を励みにさらに検討を重ね、酸化ストレス研究の進歩に貢献出来るよう努力していきたいと思っております。今後とも御指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしく御願申し上げます。



(写真左から 小澤理事長/御簾/斎藤/神谷)

「2012年 学術賞を受賞して」

吉田 康一 (独立行政法人産業技術総合研究所)

この度は、日本酸化ストレス学会学術賞を頂き、大変光栄に存じます。これまでの研究活動においてご指導いただきました多くの先生方に厚く感謝申し上げます。

私は大学院博士課程で初めて生体における酸化に関して研究をスタートしました。その後、企業での研究で全く違った分野の「酸化」をテーマとしましたが、産業技術総合研究所(産総研)に入所することになり、再度、二本鋭雄先生のもと、生体酸化をテーマに約10年研究を行って参りました。この間、本学会の前身である「日本過酸化脂質・フリーラジカル学会」に所属させて頂きました。もう20年も前になりますが、博士課程での研究を開始するに当たり、御殿場での日本フリーラジカル学会へ参加させて頂き、本学会の伝統、実績、レベルの高さ、華やかさなどに感銘を受けたことを思い出します。産総研での研究は脂質の酸化物をターゲットとした網羅的な分析法の開発で疾病初期あるいは機能的因子の評価のためのバイオマーカーを提案することを目標としました。10年近く医学部の先生方あるいはビタミン関係の先生方と共同研究を推進することによって、リノール酸化物を網羅的に測定する「ヒドロキシリノール酸」がバイオマーカーとして有用であることの実績データを報告して参りました。しかしながら、バイオマーカーを広く認知いただくためにはまだまだ道のりは長く、測定方法



も含めて今後も着実に研究を進めていく必要があることを痛感いたしております。そのためにも多くの先生方との共同研究、また、ご指導をいただきたいと考えている次第です。今回、学術賞をいただいたことを大きな契機として今後、一層研究への精進、ひいては本学会の発展のため頑張る所存でございます。

「八木記念学術奨励賞を受賞して」

吉田彩佳 (神奈川歯科大学生体管理医学講座薬理学)



この度は八木記念学術奨励賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じております。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、前理事長 吉川敏一先生、第65回日本酸化ストレス学会学術集会会長 寺尾純二先生に並びに関係の諸先生方に御礼申し上げます。本受賞論文研究では、電子スピン共鳴(ESR)法を用い紫外線照射が誘導するROSの生体への影響と抗酸化物質であるフラバンジェノールによる直接的なROSに対する抗酸化作用とマウス顎顔面領域の酸化ストレスを抑制すること報告いたしました。本賞を受賞するにあたり、指導いただきました李昌一教授、吉野文彦准教授をはじめとし所属教室の先生方に心から感謝申し上げます。今後ともこの受賞を励みに酸化ストレス研究を邁進していきたいと考えております。



◇◇◇ その他各賞受賞について ◇◇◇

第16回SFRR International (2012.9.6-9 London, U.K.)の際に、下記の9名がYoung Investigator Awardを受賞されました。

【Informa Healthcare Young Investigator Award】2名

辻 俊史(京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学)
今年9月、ロンドンにて開催されました第16回SFRR International国際会議におきまして、Young Investigator Awardという栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。この受賞は、酸化ストレスの研究に導いてくださいました吉川敏一先生、内藤裕二先生、高木智久先生、半田 修先生をはじめ研究室の先生方のお陰であり、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。今回、SFRR Internationalへは初めて参加させて頂き、非常に良い経験をさせていただきました。これを糧に今後も、研究活動に邁進していき、酸化ストレス分野の発展に少しでも貢献できればと考えております。今後とも引き続き御指導頂けますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

角田 智志(山形大学大学院医学系研究科)

今年度、ロンドンにて開催されましたSFRR International国際会議にてInforma Healthcare Young Investigator Awardを受賞することができ、大変嬉しく思っております。本受賞にあたり、日頃よりご指導頂いております山形大学大学院医学系研究科、藤井順逸教授をはじめ研究室の先生方に厚く御礼申し上げます。この受賞を励みに酸化ストレス研究の発展に貢献できるよう日々精進して行く所存です。今後とも御指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

【SFRR Asia Young Investigator Award】5名

福島 直樹(名古屋大学大学院薬学系研究科)

この度、第16回SFRR InternationalにおいてSFRR Asia Young Investigator Awardを受賞することができ、大変嬉しく思います。本学会では、国内外の様々な考え方をを持った研究者と関わる機会があり、大変貴重な経験となりました。この受賞を励みとし、今後とも酸化ストレス研究に邁進いたします。本研究は、名古屋大学大学院薬学系研究科薬化学教室の宮田直樹教授、中川秀彦准教授、家田直弥助教のご指導のもと行つたもので、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、日頃から様々なご助力を賜りました研究室の皆様へ深く感謝申し上げます。

福井 浩二(芝浦工業大学システム理工学部)

この度は、SFRR Asia Young Investigator Awardを頂き、大変光栄に感じております。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生をはじめ選考に関わった多くの先生方に厚く御礼申し上げます。また、学生時代より長きに渡りご指導を賜っております本学会理事でもある浦野四郎先生に感謝いたします。本学会には前身である日本過酸化脂質・フリーラジカル学会時代より在籍しています。私は、一貫して「老化のフリーラジカル説」に基づいて、「脳老化のメカニズムの解明」について研究を行っております。工・医・理学部に在籍した経験を生かし、今後も研究を重ね、更なる成果を本学会にて発表していきたいと思っています。今後とも諸先生方のご指導を宜しくお願ひ申し上げます。

松村有里子(東京工業大学大学院生命理工学系研究科)

この度、16th Society for free radical research internationalにおいてSFRR Asia Young Investigator Awardを受賞することができ、大変光栄に存じております。今後ともこの受賞を励みに、更に研究に精進して参りたいと存じます。今後この分野における研究の発展に少しでも貢献できますよう精進して参る所存ですので、引き続き、御指導・御鞭撻を賜われますよう宜しくお願ひ申し上げます。最後に、日頃より御指導を賜っております東京工業大学大学院生命理工学系研究科 河野雅弘先生、小澤俊彦先生、岩澤篤郎先生、ならびに日本酸化ストレス学会の諸先生方へこの場をかりて深く感謝申し上げます。

倉橋 敏裕(山形大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座)

この度は第16回SFRR Biennial Meetingに於きましてYoung Investigator Awardを賜り、大変光栄に存じております。学会長ならびに関係の諸先生方に厚く御礼申し上げます。本受賞に恥じることがないよう、微力ながらも酸化ストレス研究に貢献すべく、引き続き精進する所存であります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。最後に、日頃より並々ならぬ情熱をもってご指導頂いております藤井順逸教授をはじめ、研究室の諸先生方並びに共同研究者の皆様方へ、この場を借りて御礼申し上げます。

多田 美香(東北工業大学共通教育センター・理数教育部)

この度は、名誉あるSFRR Asia Young Investigator Awardを賜り大変光栄に存じております。日本酸化ストレス学会理事長 小澤俊彦先生、副理事長 内藤裕二先生、日頃よりご高配いただきました河野雅弘先生に心より感謝申し上げます。SFRR2012ではA study on the radical generation through the process of melanin synthesisを発表し、メラニン形成初期に存在する-OHはtyrosine-tyrosinase反応過程で生成することを推定いたしました。本受賞を糧に更なる-OH生成機構の解明を進めて参ります。今後とも変わらぬご助力の程、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



【Informa Healthcare Prestigious Poster Award】2名

会沢 和之(名古屋大学大学院薬学系研究科)

先日ロンドンにて開催されました第16回SFRR International meetingにおいてInforma Healthcare Prestigious Poster Awardを受賞することができ、大変光栄に思います。今回の学会では世界の研究者の方々と研究内容について議論するという貴重な機会を頂き、また貴重なお話を御意見もたくさん頂きました。これを糧に今後も私の研究課題である窒素酸化物供給の開発に邁進し、酸化ストレス分野の発展に寄与できれば幸いです。最後になりますが、研究を遂行するにあたり御指導頂いた名古屋大学大学院薬学系研究科薬化学教室の宮田直樹教授を始めとする先生方、ならびに日頃より様々な御助力を賜りました教室員の皆様方に深く感謝申し上げます。

安田 大輔(慶應義塾大学大学院薬学系研究科)

この度は、SFRR2012におきまして栄えあるYoung Investigator Awardを受賞することができ、大変有り難く存じております。酸化ストレス研究において、抗酸化物質は必須のツールです。酸化ストレス研究、ひいては医歯薬学の発展に深く寄与できるような新しい抗酸化物質の創製を目指し、今回の受賞を励みとしてより一層精進して参ります。最後になりましたが、本賞受賞にあたりまして、日本酸化ストレス学会 小澤俊彦理事長をはじめ、関係各位の先生方に深く感謝いたします。また、日頃より熱心な御指導を頂いております、慶應義塾大学薬学部 増野匡彦先生、高橋恭子先生に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

☆☆☆ 功労賞 ☆☆☆

本学会に長きに亘りご尽力を頂きました、下記2名の先生に授与されました。

森 昭胤(岡山大学名誉教授)
浅田浩二(京都大学名誉教授)



記念の
クリスタル文鎮

本会では、今後も、これまでの功績を称え、また、今後の活躍を期待し、各種賞の授与を行う予定です。自薦他薦を問いませんので、是非多くのご応募・ご推薦お待ちしております。

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにでも随時情報を掲載予定です。

* 次々期学術集会予定 *

第67回日本酸化ストレス学会学術集会

日 時：2014(平成26)年 ※秋頃日時未定
会 場：京都
会 長：野口範子(同志社大学 教授)

日本酸化ストレス学会 東海支部 第1回学術大会

日 時：2013(平成23)年2月9日(土) 13:30-17:10
会 場：名古屋大学大学院薬学系研究科研究棟会議室
(名古屋市瑞穂区田辺通3-1)
主 催：日本酸化ストレス学会東海支部 大会委員長：宮田直樹

International Free Radical Winter School
in Muikamachi 2013

会 期：2013年3月10日(日)~13日(水)
会 場：上越六日町高原ホテル (<http://www.muikamachi.com/hotel/>)
〒949-6636 新潟県南魚沼市小栗山2910-114 /Phone:025-773-3311
参加費：3万5千円(3泊朝食付)(ホテルのご厚意で破格の値段設定となっております。)



これまでも2009年9月にホテルグリーンプラザ上越でInternational Free Radical School、また2011年8月および2012年8月には筑波大学館山研究所にてフリーラジカルスクールを企画開催してまいりました。各回とも盛會に執り行われ、参加していただきました皆様にも大変ご好評をいただいております。そこで本年も、フリーラジカル研究を志す若手研究者および学生向けの国際研究交流会「International Free Radical Winter School in Muikamachi 2013」を開催することにいたしました。アジア地域のフリーラジカル研究の先駆者たちを招き、フリーラジカル研究の基礎から最先端に至るまで、それぞれの持ち味を生かした講義をしていただきます。今回の会場となる上越六日町高原ホテルは、3月ならまだ深い雪の中。勉強するにはうってつけの静かな環境です。ホテルの目の前には六日町スキーリゾートのグレンデが広がり、お昼休みにちよっと一滑りなんて楽しみ方もできるかも。勉強の後は天然温泉の大浴場が疲れを癒してくれることでしょう。単に知識を得るだけでなく、研究者間の交流を深める場となることを大いに期待します。参加申し込み希望者は (<http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/matsui-gl/>)から申し込みページへアクセスしてください。

主催：松井裕史(筑波大学医療系) 文責：放医研・松本謙一郎

第30回臨床フリーラジカル会議

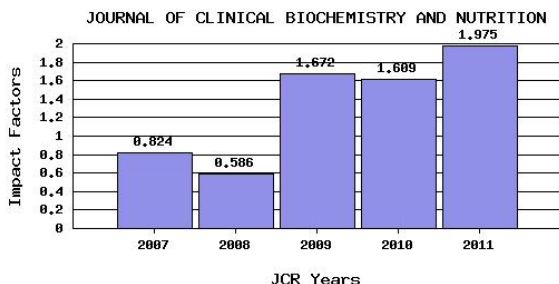
会 期：2013年12月13日(金)p.m.~14日(土)a.m.
会 場：烟河(けぶりかわ) 会議室 (京都府亀岡市)
当番世話人：吉川 敏一(京都府立医科大学学長)
問い合わせ先：e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp



オンラインによる投稿随時受付中!
 下記HPよりお入り下さい。
<http://sfrj.umin.jp/JCBN.htm>

Online SubmissionのURL
<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

現在の Impact Factor : 1.975 (2011)



New! *** 役員新任報告 ***
 2012年度役員会にて、新しい役員が下記の通り選出されました。

名誉理事長: 吉川敏一 理事長: 小澤俊彦 (再任)
 名誉会員: 牧野圭祐、福澤健治、谷口直之
 新評議員: 高山房子、小嶋仲夫、浦野泰照、佐藤公雄 (以上4名)

シリーズ: 酸化ストレスのつぶやき 第4回



犬童 寛子
 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
 腫瘍学講座 顎顔面放射線学分野

リケジョ(理系女子)、最近よく耳にする言葉である。不況、就職難のこのご時世、文系よりも理系の方が就職に有利ということもあり、理系の学部に進学する女子学生が年々増えてきている。確かに、うちの学部生(歯学部)の男女比をみると、私が学生の頃は女子学生の割合は2割程度であったのに対し、最近では41%と明らかにその割合が増えている。また、国を挙げて男女共同参画を推進しており、わが鹿児島大学男女共同参画推進センターにおいても、女性研究者の支援はもとより、意識啓発・広報活動、また女子中高生のための鹿児島大学体験塾などを行っている。女性研究者への支援については、いろいろと意見があるようで、男性からしてみれば逆差別だという意見がまだにあるという。国が推進している「男女共同参画社会の実現をめざす」というのは、基本的に性差を否定したり、男らしさ、女らしさや男女間の区別をなくして人間の中性化をめざすことであって、画一的に男女の違いを無くし人間の中性化をめざすものではないとしている。つまりジェンダーフリーの解釈に問題があるように思われる。また、同じ女性でも出産・育児支援をうけない独身女性研究者にしてみれば、自分は結婚もせずに仕事を一生懸命頑張っているのに、結婚をしている女性研究者だけが支援をうけるというのは不公平だというような意見もあるらしい。支援の中にも介護支援というものがあ、独身女性もいつの日か親の介護で支援をうけることがあるかもしれないので、そんなことは言わずに身近にいる出産・育児支援をうけている女性研究者を応援してあげるほうがいいのではないと思う。男らしさ、女らしさで思い出したのだが、私は子供の頃は(も?) 落ち着きがなくてじゃじゃ馬であったため、両親からよく「女のくせに・・・。」と叱られ、幼心にも「女だからって、どうしていけないのよ! 」と叫んでいたのをいまでも鮮明に覚えている。大人になってからは、その反動なのか、逆に「男のくせに・・・。」と内心で思ってしまう自分がいる。しかし、そんな事を言おうものなら、逆セクハラで訴えられそうなので、言わずにグッと胸の奥にしまいこむことが多い。上司、同僚だけではなく、学生や研修医に対しても同じことで、この頃は何かによつて自分の言動でもアカハラだとかわハラだとかかっていくことになりかねない。やはり自分の言動にはくれぐれも気をつけなければいけないなあと思う今日この頃である。かくいう私は、実はハラスメント委員なのである。

*** 現在の役員は下記の通り、日本より4名の委員が就任しております。***

SFRR Asia Officer of SFRR ASIA (2012-2013)

President: Jeen-Woo Park (Korea)
 President-elect: Daniel Tsun-Yee Chiu (Taiwan)
 Secretary-General: Yuji Naito (Japan)
 Treasurer: Hideyuki Majima (Japan)
 Representative: Shinya Toyokuni (Japan)/ Noriko Noguchi (Japan)

* 次回SFRR ASIA Biennial Meetingは、下記の通り開催予定です*

6th Biennial Meeting of
 Society for Free Radical Research Asia

Date: October 16-19, 2013
 Venue: The Second Medicine building,
 Chang-Gung University
 Tao-Yuan, Taiwan



President: Prof. Daniel Tsun-Yee Chiu
 (President of SFRR Taiwan)

Website: <http://www.sfr-asia2013.org/>

Young Investigator Awardの授与を予定しております。
 会期に先立って、公募予定ですので、発表予定の若手演者の方は、是非ご応募下さい。詳細は学会HPをご確認下さい。

<http://sfrj.umin.jp/asia/index.htm>

SFRR Asia オフィシャルジャーナル

Free Radical Research is the official journal
 of the Society for Free Radical Research



会員特別価格での定期購読の受付を行っています。

Special online subscription rate of **75 UK pounds per year** (January 1 to December 31; individual basis, not institutional).

• Impact Factor 2010 Impact Factor: 2.805
 • Publication Frequency: 12 issues per year
<http://www.informaworld.com/smpp/title~content=t713642632>

SFRR Japan (日本酸化ストレス学会) は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◆◆◆ 事務局より ◆◆◆

【会費納入のお願い】

日本酸化ストレス学会では、年度初め(毎年1月)に会費納入のご案内を差し上げております。

理事・評議員	12,000円/年	一般会員	7,000円/年
学生会員	2,000円/年	賛助会員	100,000円/年 一口

滞納が続きますと、退会処分となることがありますので、必ず会費を納めてくださいますようお願い申し上げます。



【会員情報 変更・追加等連絡のお願い】

会員情報変更などが行われていないのに、連絡先不明となることが多発しております。転居先不明などで連絡が取れない場合、学会情報などを送ることが出来ません。必ず、変更手続きを事務局宛で連絡下さいませよう、重ねてお願い申し上げます。



SFRR Newsletter 2013年1月号

発行: 2013年1月1日

SFRR Japan Newsletterに掲載を希望される方、あるいは、ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局 (庶務委員会: 内藤裕二・半田 修)
 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
 TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521
 E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp
 HP: <http://sfrj.umin.jp/index.htm>